

今大会の締めくくりは男子決勝戦。女子決勝戦同様、オープニングは各国選手とコーチを1人ずつ紹介し、各国の国歌斉唱が行われました。第5ピリオドが終了し、カナダ2、ベルギー2、日本1と遅れをとります。第6ピリオドでは日本が軽快なテンポで点数を重ね、カナダを脱落させ、ベルギーを4点差で破り、各国2ピリオドで並びます。ここからが正念場。第7ピリオドは日本が8点に達するとともに6点のベルギーとカナダの一騎打ちとなり、カナダがポイントを取り、ベルギーが脱落。日本が先に10点に届くも、カナダが1点差まで迫ります。ヒリヒリした緊張感が会場を包み、ここで日本がタイムアウト。日本のヒットが決まり、このピリオドも日本が取り、王手をかけます。

運命の第8ピリオドでは日本が順調に点数を重ね、ベルギーが脱落。日本9点、カナダ6点で、カナダのヒットがアウトになり、日本はチャンピオンシップポイント。日本ベンチでは選手たちがコートに飛び出す準備をしています。カナダがタイムアウトをとり、その後速攻などで攻められ2点差まで追いつかれます。そして、日本のヒットイン。砂田隼汰選手がオフェンス・ゾーン内にいるカナダの選手目掛けて強烈なヒットを打ち込みました。ボールはその選手の身体に当たり、足でボールをフォローしようとするもボールは床へ。日本の金メダルが決まった瞬間でした。プレーヤーもコーチもベンチから飛び出し、応援をしてくれていた人たちも日の丸のうちわを大きく振り、歓喜の時を迎えました。その後、カナダとベルギーのタイブレークが行われ、カナダの銀メダル、ベルギーの銅メダルが決まりました。



今大会では男子はカナダに全勝、女子は決勝で敗れはしたものの予選や準決勝ではカナダを破っています。女子がカナダに勝ったのは初めてで、しかも2回勝利しています。これまで難攻不落と思われたカナダ女子ですが、今大会で互角に戦える相手となり、金メダルも実現可能なものとなりました。男子は2回目の金メダルですが、前回の決勝戦の場にカナダはいませんでした。今回初めて決勝の場で直接強豪カナダを破ったの金メダルになりました。

ワールドカップと同時開催されたインターナショナルオープン2024はプロとアマチュアの2部門があり、日本からプロ部門に4チームが参加しました。決勝は日本チーム3チームでの戦いとなり、接戦の末、Leve Sawyerチームが優勝。日本チームの技術の高さやプレーヤーの層の厚さを世界に知らしめる大会となりました。

韓国連盟は前年に同じ会場でアジアカップを開催しており、大会運営もスムーズに行われました。今回特に素晴らしかったのは動画配信。全試合ライブ中継で、特に決勝戦はカメラ4台とドローンも活用し、臨場感あふれる試合を、会場にいなくても楽しむことができました。



キンボールスポーツ ワールドカップ&
インターナショナルオープン2024
の詳細はこちら。

